

高崎学検定の傾向と対策—たねあかし—

石原 征明

検定問題の作成

問題の作成 分野・項目の検討 過去に出題した問題との関係を考慮
難易度を検討し、慎重に考慮して作成する

検定問題の内容

平成の合併で成立した高崎市にかかわる問題 人口・面積・特性などを考慮
かなり広い分野にわたる（高崎学検定の特色）
自然・動植物・歴史・地理・民俗・文化・芸術・工業・商業・交通・観光
出題範囲の広さ 日本一難しい問題といわれること

高崎学検定の傾向と対策

平均点 60～65点 を目標 実際は年ごとに変化
1回目 47.4点 2回目 61.9点 3回目 67.7点 4回目 71.2点 5回目 67.5点

歴史の場合 ロマンを感じ学びたい事項 出題の困難さがある
（答えが得にくい事項 出題するのが困難）

高崎学検定講座（プレ講座）で話されたこと 出題される傾向が大きい
テレビ・新聞・広報などで採り上げられ場合 出題される傾向が大きい
高崎学の重要分野（ポイント）つかむ ← 過去問題の検討

問題文をよく読むと 答えに関する示唆が含まれている
正答を求める → 正答を探す 消去法で回答を探す
過去に出題された問題は視点を变えて出題されている
答えが得にくい事項 出題するのが困難
年代 重要なもののみ あまり細かく年代を問わない

対策として大切なこと

重要なことをしっかり把握 自己流の勉強でも良い
たくさんの本を読破するのは困難 ポイントをしっかり把握
検定のプレ講座を聞く 講座を聞いたなら試してみる（検定を受けてみる）

検定を受ける人の地域的分布 検定問題の分野別構成
検定を受ける人の年齢構成
検定本の作成 現在作業が進められている
出題された問題の検討

問題 1

第1回高崎学検定 問58より

1884（明治 17）年、棟高村（現在棟高町）に生まれた山村暮鳥は近代詩に大きな影響を与えました。その作品はどれでしょうか。

(1) 「月に吠える」

(2) 「聖三稜玻璃」

(3) 「若菜集」

(4) 「藍色の暮」

【正解 2】

問題 2

第2回高崎学検定 問3 2より

高崎地域は、横浜開港以後、急速に繭・【 ア 】の生産が盛んになり、水はけの良い山麓や台地などが、一面の桑畑となりました。

蚕を飼うため農家の作りも工夫され、榛名山麓の平屋の農家では、屋根裏を養蚕作業に使うため、切妻屋根の南側中央部を切り落とし、そこに庇をつけた【 イ 】の養蚕農家が現れました。その後、二階建て養蚕農家が増えて行きました。蚕はきれいな空気が必要です。空気の流通を良くするため、二階の屋根の上に【 ウ 】が設けられました。やがて、二階建てでこのような施設をもった養蚕農家が一般的になりました。

蚕は4回脱皮して、繭をつくります。この時、養蚕農家では蚕が繭をつくりやすいように、【 エ 】を置いてやります。そこに蚕は繭をつくりました。繭を煮て糸を繰り取る道具が【 オ 】で、高崎地域では機械製糸に移る前、盛んに使われ、品質の良い生糸の大量生産に役立ちました。

ア： (1) 茶 (2) 生糸 (3) 米 (4) 木綿
〔正解 2〕

イ： (1) 竪穴式 (2) 寄棟型 (3) 高床式 (4) 榛名型
〔正解 4〕

ウ： (1) 檜 (2) 屋台 (3) 天守閣 (4) 塔
〔正解 1〕

エ： (1) むしろ (2) まぶし (3) 箱 (4) 籠
〔正解 2〕

オ： (1) 胴繰り器 (2) 手繰り (3) 座繰り器 (4) 牛首
〔正解 3〕

問題 3

第2回高崎学検定 問46より

きょうがい
境涯の俳人として知られる村上鬼城は、父の仕事のために8歳の時に高崎に移り住み、【ア】として働く傍らで、正岡子規や高浜虚子に俳句を学び、やがて『【イ】』同人となって、大正期における代表的俳人として活躍し、数多くの優れた作品を残しました。倉賀野町の養報寺に建つ句碑に刻まれる「小鳥この頃音もさせずに来て居りぬ」からは【ウ】に悩む鬼城の思いが伝わってきます。

ア: (1) 司法代書人 (2) 教師 (3) 公証人 (4) 医師

[正解 1]

イ: (1) 麻苧 あさを (2) ホトギス (3) 馬酔木 あしび (4) ウグイス

[正解 2]

ウ: (1) 結核 (2) 心臓病 (3) 弱視 (4) 難聴

[正解 4]

問題 4

第3回高崎学検定 問38より

次の文章のうち、【ア】～【ウ】に適するものは、下の選択肢のそれぞれどれでしょうか。

2013（平成25）年から榛名山を舞台に繰り広げられる3つのスポーツイベントが始まり、全国から大勢の参加者が集まっています。

この3つのスポーツイベントは、榛名湖マラソン、榛名湖リゾート・トライアスロン in 群馬、【ア】です。

榛名湖マラソンは、榛名湖畔を周回する【イ】で、公益財団法人日本陸上競技連盟の公認コースとしては日本一の標高です。

今年の【ア】は約6千人がエントリーし、この競技の大会としては国内2番目の開催規模となりました。この競技コースは、県道安中・榛名湖線を高崎市榛名支所の前から天神峠頂上までとっていますが、坂路の勾配が最も急な場所は【ウ】の14パーセントとされています。

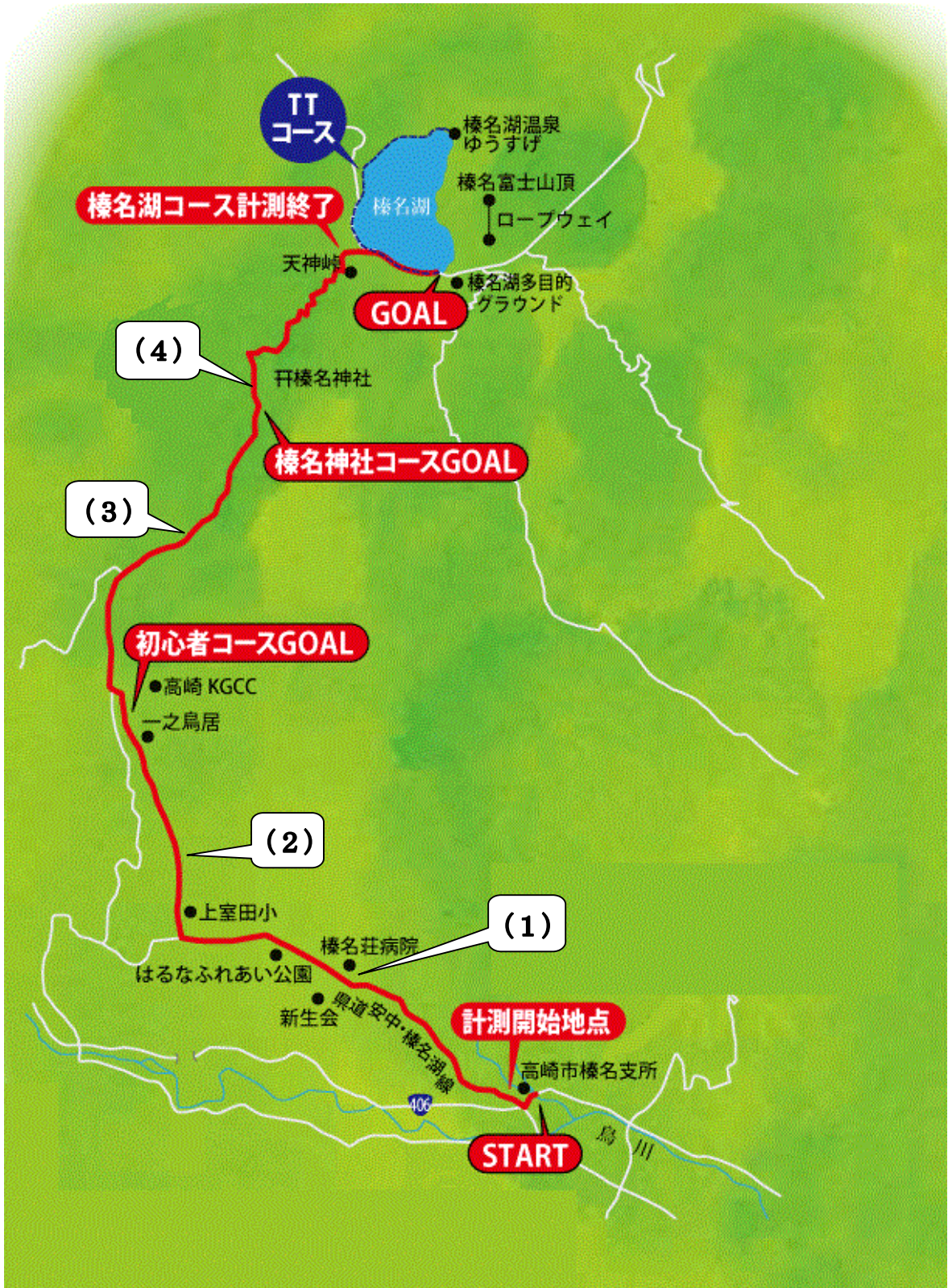
- ア：
- (1) 榛名山サイクリングツアー in 高崎
 - (2) 榛名山ヒルクライム in 高崎
 - (3) ツール・ド・榛名山 in 高崎
 - (4) 榛名山クロスカントリー in 高崎

[正解 2]

- イ：
- (1) ハーフマラソン（21.0975キロメートル）
 - (2) フルマラソン（42.195キロメートル）
 - (3) ウルト라마ラソン（50キロメートルと100キロメートル）
 - (4) 駅伝競走

[正解 2]

ウ：



問題 5

第4回高崎学検定 問25より

次の高崎市略図のなかのア～ウに適するものは、下の選択肢のそれぞれどれでしょうか。



ア (1) 旧倉渕村 (2) 旧群馬町 (3) 旧榛名町 (4) 旧箕郷町
[正解 1]

イ (1) 旧群馬町 (2) 旧新町 (3) 旧箕郷町 (4) 旧吉井町
[正解 3]

ウ (1) 旧倉渕村 (2) 旧新町 (3) 旧榛名町 (4) 旧吉井町
[正解 2]

問題 6

第 5 回高崎学検定 問 1 より

次の文章のうち、【ア】、【イ】に適するものは、下の選択肢のそれぞれどれでしょうか。

高崎地域では古くから二毛作が行われていました。夏には稲を作り、冬には麦を作りました。麦は主に大麦と小麦でした。小麦は中小の河川や、古くから高崎台地を潤す長野堰などの用水のほとりに作られた水車で挽かれ小麦粉になりました。小麦粉はうどんとして食べたり、つみっこ・すいとんや【ア】などと呼ばれる汁物の食べ物になって、米の不足を補う役割を果たしました。特にうどんは冠婚葬祭などの食事の最後に出されるものとして重要な役割を持っていました。高崎の産物として知られている【イ】は、こうした粉食文化の歴史を受け継いでいるものです。

- ア (1) おっきりこみ (2) ひやむぎ
(3) そうめん (4) ちゃんぽん

〔正解 1〕

- イ (1) 水沢うどん (2) 高崎うどん
(3) 讃岐うどん (4) 倉渕うどん

〔正解 2〕

問題 7

第 5 回高崎学検定 問 2 5 より

次の文章のうち、【ア】～【ウ】に適するものは、下の選択肢のそれぞれどれでしょうか。

日本が産業革命を経て急速に発展すると、保育や貧しい家庭の子女の教育が問題になってきました。高崎市赤坂町の長松寺住職山端息耕は、高崎市立北小学校と曹洞宗寺院の協力を得て、長松寺内に【ア】をつくりました。家が貧しいため他家に勤め、子守をしている子女のための初等教育の場としたのです。

子守をしている子女は、勤めている家の小さい子どもを【イ】集まり、【ア】で勉強をしました。もちろん子どもの面倒も見ました。【ア】は、初等教育と【ウ】が一体化した機能を持った立派な施設でした。

- ア (1) 高崎育児院 (2) 樹徳子守学校
(3) 長松寺こども園 (4) 曹洞宗保育園

[正解 2]

- イ (1) 抱いて (2) 乳母車に乗せて
(3) 負紐でおぶって (4) 車椅子に乗せ

[正解 3]

- ウ (1) 保育 (2) 新時代教育 (3) 宗教教育 (4) 小学校教育

[正解 1]